

# 救急医療の現状

「家族が急な病に倒れ、119番通報した時、病院までの搬送に時間がかかったり、お子さんが夜間に発熱し、近くの総合病院に電話をしたとき、専門医がいななどの理由から、受け入れを拒否された経験はありませんか？」

急性心筋梗塞で死亡する市民の割合が、全国平均に比べ2倍近く高いことも踏まえ、地域救急医療の現状を検証したいと思います。

## 子育て中のお母さんに伺いました

なめがた地域総合病院の小児科には、7歳の長男が小さい時からかかっています。最近では常勤の先生が少なくなっているのが、鹿嶋市夜間小児救急診療所や土浦協同病院まで連れていくこともあります。

市内での夜間の小児医療は、弱体化していると感じています。救急について、24時間対応できるような体制作り、近隣でも子ども



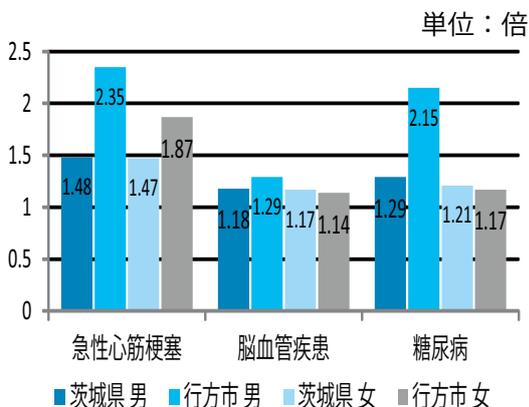
大橋望美さん・結寛君親子

どもの急な病気の時に相談・診察にもつながる仕組み作りを考えて欲しいと思います。



医師の確保が急がれるなめがた地域総合病院

＜死亡比の全国平均比較＞



## なめがた地域総合病院の現状と課題



なめがた地域総合病院 院長 田畑 均

なめがた地域総合病院が県や地元から強い要請を受け、平成12年に開院して以来、「地域の方々の健康と命は地元の医療機関が守らなくてはならない」という姿勢で地域に密着した医療を心がけ、平成17年には救命救急センター棟を増築し、救急専門医が中心となって救急医療も行っています。また、重傷者の搬送に伴うドクターヘリの離発着に対応するため、ヘリポートを整備したほか、最近では、平成24年10月に鹿行地域では初めて、超高速X線CTスキャナーを導入し、質の高い医療の提供に努めています。

一方で、当院の一番の悩みは、医師不足です。平成23年3月に循環器系の医師が不在となったほか、外科医や内科医、小児科医、救急医などが不足しているため、休日や夜間の救急患者の受け入れが十分にできていないのが実情です。また、

医師の高齢化が進み、このままでは医療機能の低下が危惧されます。さらには、さまざまな要因から、若い医師の確保もままならない状況です。この医師不足は、患者数の減少にもつながっており、特に、救急車の搬入件数が、平成22年度と23年度を比較して、26.5%減少しました。

当院としては、医師確保に努め、少しでも病院の質を高めてまいります。一方で、行政や開業医の皆様と連携しながら、地域医療、救急医療の中心的な役割を果たしていきたいと考えております。

地域の皆様には、当院の現状をご理解いただき、「みんなの病院である」という認識のもと、地域総合病院を支えていただきたいと思います。



鹿行地域で初めて導入された超高速X線CTスキャナー

# 救急医療の現状

## 1分1秒でも早く現場に駆けつける



傷病者とコミュニ

ケーションをとり、その内容を的確に病院側に伝えることを常に心がけ、救急業務を遂行しています。

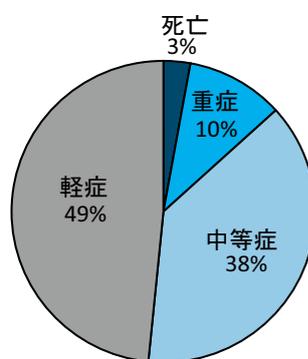
1分1秒でも早く現場に駆けつけ、病院に搬送できれば、助けられる命、後遺症が残らなくてすむ割合が高くなります。

ここ10年で、救急車の年間出動回数は、約500件ほど増えました。実際には、軽症者が約50%で、病院に搬送してもその日のうちに帰宅する方が多いのが実情です。以前は、なめがた地域総合病院に搬送した割合が高かったのですが、循環器の医師が不在となったため、30分以上かけて市外の病院に搬送する場合があります。また、現場に駆けつけ、いざ、傷病者を病院に搬送しようとしても専門医がいけないなどの理由で受け入れを拒まれることもあります。

行方地域は、救急車の不適正利用はほとんどありませんが、重症者を優先して搬送できるよう、119番通報をされる際は、その症状を正しく伝えてください。私たちは軽症と思われるでも出動します。軽症か否かの判断は、実際に現場に行かなくてはわからないからです。

行方消防署 救急係長  
救急救命士 海東 剛正

<平成23年度中の救急活動状況>  
(行方消防署管内)



## 地域で支える救急医療

ここまで、病院長や救急救命士から現場の状況を、また、市民から救急医療への要望を伺ってきました。それぞれ医師不足を理由に掲げていますが、すぐに解決できる問題ではありません。

行方市も含め、鹿行地域の医師不足は深刻です。なめがた地域総合病院の医師や開業医の皆様は、過酷な労働条件にもかかわらず、地域住民の命を守るため、日々、奮闘しています。

地域の救急医療の灯火を絶やさなため、普段からかかりつけ医との意思疎通を図るとともに、定期的に健康診断を受診するなど、健康維持に努めていただくようお願いいたします。そして、地域で救急医療を支え、市民の皆様と一緒に、医師確保を訴えていきたいと思えます。

## 子どもの救急ワンポイントアドバイス

なめがた地域総合病院

小児科部長 太田 哲也



子どもの病気で特に注意しなければならぬ症状は、けいれん(ひきつけ)、呼吸困難、嘔吐(おうと) (10回以上繰り返した場合)です。けいれんは、一般的に5分くらい様子を見てから受診するようにと言われていますが、この地域では、夜間において子どもの病気で特に注意しなければならぬ症状は、けいれん(ひきつけ)、呼吸困難、嘔吐(おうと) (10回以上繰り返した場合)です。けいれんは、一般的に5分くらい様子を見てから受診するようにと言われていますが、この地域では、夜間において

はすぐに病院で受診できるとは限りません。初めてのけいれんの時は、病院を受診することをお勧めします。また、呼吸困難で苦しんでいる時や10回以上を繰り返す嘔吐は、重病の可能性もあるので、すぐに受診したほうがよいです。

## 休日や夜間に診てくれる医療機関を探すには

～茨城県救急医療情報コントロールセンター～

オペレーターが24時間対応します。

電話 029-241-4199

(「24時間いつでも良い救急」と覚えてください)

## お子さんが急な病気で心配なときは

～茨城子ども救急電話相談～

お子さんが急な病気で心配なときご相談ください。看護師がお答えします。

【相談日時】

- ・毎日の夜間：午後6時30分～午後11時30分
- ・休日の昼間：午前9時～午後5時

※休日とは

日曜・祝日・年末年始 (12月29日から1月3日)

【電話番号】

- ・プッシュ回線電話・携帯電話から

#8000 (局番なし)

- ・すべての電話から

029-254-9900

